

## 第 30 回シクロデキストリンシンポジウム報告

この度、平成 25 年 9 月 12 日（木）、13 日（金）の両日、くまもと県民交流館パレアにおきまして第 30 回シクロデキストリンシンポジウムを開催いたしました。地方での開催ということもあり、ご参加頂けるか心配をしておりましたが、239 名の参加者をお迎えし、無事にシンポジウムを開催することができました。

初日は午前 10 時 演題の一般口頭発表を行い、昼食を挟んで 48 演題のポスター発表が行われ、活発なディスカッションがなされました。その後開催された総会にて、平成 25 年度シクロデキストリン学会賞および奨励賞の授与式が執り行われました。学会賞を受賞された武庫川女子大学薬学部の谷本敏子先生からは、「糖修飾シクロデキストリン類の合成とそれらの機能に関する研究」と題した講演を行って頂き、分岐シクロデキストリンの様々な可能性について拝聴しました。また、日本食品化工株式会社の和田幸樹先生からは、「医薬用 2-ヒドロキシプロピル- $\beta$ -シクロデキストリンの開発及び生体サンプルからの検出法の確立」と題した講演を行って頂き、GMP 管理化でのシクロデキストリン製造や新たな定量法の構築に関して最新の知見を伺うことができました。初日の最後には、一つ目の特別講演として、崇城大学 DDS 研究所の上釜兼人先生より、「シクロデキストリンを用いたスーパージェネリック製剤の構築」と題したご講演を頂き、シクロデキストリン添加による医薬品のバイオアベイラビリティの増大や新機能の発現など、先発医薬品を上回るメリットを備えたジェネリック製剤の可能性をご紹介頂きました。

初日の発表終了後、場所を鶴屋ホールに移動して、懇親会を開催しました。会はシクロデキストリン学会長の池田 宰先生（宇都宮大学）のご挨拶および本学薬学部長の大塚雅己先生の歓迎の辞ならびにシクロデキストリン学会副会長の高橋圭子先生（東京工芸大学）の乾杯に始まり、学会賞・奨励賞の受賞者である谷本、和田両先生の受賞のご挨拶と進み、今年度のポスター賞の授与に移りました。ポスター賞を受賞された方は、土屋陽一さん（九州先端科学技術研究所）、関 智宏さん（城西大学）、猪西敏史さん（神戸薬科大学）、田中雄太さん（熊本大学）、田村篤志さん（東京医科歯科大学）、光安亮輔さん（熊本大学）の 6 名です。お祝いを申し上げますとともに、今後のご活躍を祈念致します。会は、ジャズピアノ演奏や余興（熊本大学製剤設計学分野）を経て、次回のシンポジウム実行委員長長の山本達之先生（島根大学）のご挨拶を頂き、終了となりました。

第二日目の午前は、二つ目の特別講演として星薬科大学の上田晴久先生より「大環状シクロデキストリン—その研究現状と将来の可能性」についてご発表頂き、大環状シクロデキストリンの調製、構造や物理化学的性質など基礎的内容から巨大医薬品分子への応用について幅広く講演頂きました。その後、「医薬品としてのシクロデキストリン」をテーマに最先端セッション講演を 5 名の先生に講演頂きました。セッションの一人目は佐賀大学医学部の松尾宗明先生に、「ニーマンピック病 C 型に対するシクロデキストリン療法」という演題で講演頂き、ニーマンピック病 C 型治療薬としてのシクロデキストリンの有用性について、臨床試験の結果を交えながら詳細をご報告頂きました。次に、佐賀大学医学部の木村晋也先生に「2-hydroxypropyl- $\beta$ -cyclodextrin の抗白血病効果」についてご講演頂き、抗がん剤としてシクロデキストリンが有用であることを報告頂きました。次に、熊本大学生命資源研究・支援セ

ンターの竹尾 透先生に「受精促進化合物としてのシクロデキストリンの利用」という演題で、マウス体外受精におけるシクロデキストリンの有用性および遺伝子改変マウス研究におけるシクロデキストリンの貢献について紹介頂きました。そして、熊本大学医学部附属病院の城野博史先生より、「シクロデキストリンの特性を利用した難治性アミロイドーシスの新規治療戦略の構築」という演題で講演頂き、肝移植に代わる家族性アミロイドポリニューロパチー治療薬としての可能性を拝聴しました。セッションの最後は、熊本大学の本山敬一先生より「腫瘍細胞選択的抗がん剤としての葉酸修飾シクロデキストリンの有用性評価」について講演頂き、標的指向性を付与した抗がん剤としてのシクロデキストリンの可能性をご報告頂きました。本セッション講演により、これまで医薬品添加物として使用されてきたシクロデキストリンが、医薬品原薬（API）または API 候補品となりうる、いわば医薬分野におけるシクロデキストリン研究のパラダイムシフトの訪れが示唆されたように思います。その後、第30回の記念企画として「シクロデキストリン学会の30年の歩みとこれから」というテーマで、公益社団法人糖業協会の橋本 仁先生、崇城大学 DDS 研究所の上釜兼人先生に、企業およびアカデミアの立場から本会の歴史と将来についてご発表頂きました。また、宇都宮大学の加藤紀弘先生と大阪大学の高島義徳先生に、若手研究者の立場から、シクロデキストリン研究の新たな可能性についてお話頂きました。その後、34 演題のポスターセッションを行い、三つ目の特別講演を同志社大学の加納航治先生に、「シクロデキストリンの超分子性」という内容でご講演頂き、鉄錯体とトリメチル化シクロデキストリンの優れた超分子性とその可能性を拝聴しました。最後に、一般口頭発表 4 演題を行い、初日と変わらず盛況な内に第30回シクロデキストリンシンポジウムの幕を下ろしました。

今回のシンポジウム開催に際しまして、日本化学会、日本薬学会、日本薬剤学会、日本農芸化学会、日本分析化学会、日本糖質学会、日本応用糖質科学会、日本素材物性学会、高分子学会より共催・協賛のご協力を頂きました。また、以下にご紹介させていただきます関連団体および企業の皆様より多大なご支援を頂戴し、本シンポジウムを開催できましたことを申し添えるとともに、心より感謝申し上げます。旭化成ファーマ株式会社、塩水港精糖株式会社、株式会社オジックテクノロジーズ、小野薬品工業株式会社、一般財団法人化学及血清療法研究所、九動株式会社、熊本国際観光コンベンション協会、熊本大学薬学部同窓会、株式会社グラシア、株式会社シクロケム、純正化学株式会社、有限会社新成化学、株式会社新日本科学、正晃株式会社、千寿製薬株式会社、第一三共株式会社、大東化成工業株式会社、大同化成工業株式会社、大鵬薬品工業株式会社、堤化学株式会社、テルモ株式会社、東和薬品株式会社、ナガセ医薬品株式会社、ナノデックス株式会社、日本シクロデキストリン工業会、日本食品化工株式会社、株式会社ネクスト、株式会社ハートフェルト、株式会社樋口商会、株式会社ファンケル、株式会社ミカド科学産業、株式会社八尾日進堂、レニショー株式会社、湧永製薬株式会社（50 音順）

最後になりましたが、シンポジウム全般にわたり、懇切丁寧にご指導頂きました現会長の池田 宰先生に心より感謝申し上げます。また、シンポジウムの準備から当日の運営などご協力頂いた実行委員の先生方ならびに学生の皆様に感謝申し上げます。

有馬 英俊 （熊本大学大学院生命科学研究部）